

3Dシアターで講演

日時: ランチョンセミナー 4

2016年1月29日(金) 12:35-13:35

ランチョンセミナー 14

2016年1月30日(土) 12:25-13:25

会場: 第11会場(福岡国際センター 1階 展示ホール内)

# デジタル顕微鏡時代の幕開け

## 座長のことば

今を遡ること約20年、1996年に井上眼科病院で赤外線顕微鏡の開発が試みられていた。観察光はヒトの眼では感知できない赤外線であったため、画像の取得は専用の赤外線カメラであり、術者はその画像をモニターで観察しながら手術を行っていた。残念ながら、当時のハード水準では簡単な白内障を慎重に行うことはできても、汎用品として普及させるにはテクノロジーのレベルが低すぎた。

しかし、その理念はすでに確立されていたのである。すなわち、手術顕微鏡画像をデジタル情報として取得し、それを加工して3D画像として術者が観察しながら手術を行うという基本概念は受け継がれ、その後約20年の時を経て、ライカマイクロシステムズの3D画像出力ユニットを内蔵した顕微鏡として、再び登場したのである。

今回、演者の一人である大野先生は、従来の肉眼で観察する顕微鏡をアナログ的と位置づけ、この新しいシステムをデジタル顕微鏡と命名した。彼が目指すデジタル顕微鏡の可能性についてお話が伺えると考える。また、松本先生にはデジタルの特性が実際にどのように生かされているのかに関して、具体的なデータで解説頂く予定である。

本セミナーがこれから始まるデジタル顕微鏡時代の先鞭となれば幸いである。

座長

とくだ よしひろ  
**徳田 芳浩** 先生  
井上眼科病院



演者

1. 眼科領域における  
3Dサージェリーの利点を考える

まつもと そういち  
**松本 惣一** 先生 (帝京大学)



演者

2. デジタル顕微鏡を用いた  
3D Vitrectomy

おおの ひさと  
**大野 尚登** 先生 (西葛西・井上眼科)

